

令和元年度 第2回 港南区協働による地域づくり推進協議会 開催報告

【日 時】	令和元年9月24日（火）午後1時30分から午後3時15分まで
【場 所】	港南福祉ホーム（港南台）
【出席者】	藤田会長、木村副会長、五十嵐副会長、福山委員、谷本委員、木下委員（代理）、高柳委員、塩田委員、守分委員、今富委員

【港南区協働による地域づくり推進協議会の概要】

区内の地域活動者や団体が、自治会町内会など身近な地域の中で連携できる関係を築き、地域での活動をより一層進めていくために、区内で活動する各団体の代表者と区役所と一緒に話し合い、情報を交換する場として、平成26年度から設置しています。

◆目的

障害者地域活動ホームを訪問し、施設発足の経緯、活動内容や地域との交流状況などを勉強することで、障がい者に対する理解を深めるとともに、今後の協働による地域づくりに生かしていきます。

◆内容

山口さんのお話（統括責任者）【港南福祉ホーム発足の経緯】



昭和49年発足。前身である「港南ひまわり作業所」は、障がい者とその家族が中心となり、町内会館などを借りて活動していました。専用の施設建設が求められている中、地元住民との意見の相違がありなかなか建築に至りませんでした。しかし、根気よく周辺住民への説明を重ね、昭和59年に現在の港南台7丁目の土地にて活動をスタートさせました。

島宗さんのお話（港南福祉ホーム 所長）【活動内容や地域との交流】



発足当時は内職等の作業を中心に行ってききましたが、現在は積極的に地域と関わるためにも手工芸品の作成に力を入れ、イベントなどで販売するようになりました。また、地域の活動団体の皆さん、また隣接する保育園の園児とも様々な形で一緒に活動しています。港南台、区、市など、様々な環境の中で多くの人と関わりを持つことで、世界が広がり、利用者がよりイキイキと自信をもって生活することができます。

早坂さんのお話（港南区障害者団体連絡会 会長）



誰もがこの地で幸せに暮らすにはどうしたらいいかと考える中、このような施設に対する近隣の方からの風当たりは大変厳しいものでした。会の発足当時は障がい者に関する知識が今ほど広まっていなかったと感じます。今では前よりも利用者さんが社会に出ていくことに関して理解が進んでいます。障がい者と地域の皆さんとの接点の場や活動の場として、港南活動ホームのような場所ができていることをもっと広めていきたいと思えます。

《利用者の皆さんによる作品紹介》

刺繍、織物、バッグ、ブックカバーなど、色とりどりの作品を作り手自ら紹介します。



《施設活動見学（作業場）の様子》

毎日 20 名程度の利用者さんが、その日の朝に一日の計画を立てて行動しています。



◆委員からの意見、感想【意見交換】

- 利用者が楽しく明るく元気で自信をもって活動しているのが素晴らしいと思った。
- 作業工程の細かさが素晴らしい。
- 職員の方のケアがいい。
- この場所はなんとなく知っていたが、実際に見学して活動内容を知ることができてよかった。
- ここに通うこと自体を仕事としてとらえ、やりがいをもって楽しんでやっている。
- 作業場の様子をもっとたくさんの人に見てほしい。
- 素晴らしい感性と努力。自分に何ができるのかを見直したい。
- 以前は障がい者の人たちは家にひきこもりがちなところ、こういった施設が出来て外に出ることで親御さんが喜んでいと思う。こういった施設が出来ることに地域から反対意見が出るが、自分さえ良ければいいという考えを改めた方がいいと感じた。
- 販売会でバッグを買ったが製品と作り手の顔が分かってよかった。自分の作ったものが外に出て、誰かの手に渡り喜ばれ、お金になって戻ってくるという体験ができるのは素晴らしいと思う。

◆まとめ 藤田会長



古くから芹が谷にはひばりが丘学園があり、地域と障がい者施設が共存するのが普通であるという考えがあります。地域との関係で施設の立ち上げには大変苦労があったと知り、今後はお互い理解して共生していくことを広めていきたいです。人間誰しも社会貢献したいし、自分で納得する生き方をしたいと考えているものだと思います。そのお手伝いができる関係性を築いていけたらと考えています。

《意見交換の様子・集合写真》

